

平成20年8月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は北日本から西日本では高気圧に覆われて、晴れて暑い日が多くなりましたが、旬前半は本州では大気の状態が不安定となり、各地で局地的な大雨となりました。中旬は北日本から西日本では旬初めに晴れましたが、その後前線や低気圧の影響で東北地方や東・西日本の日本海側を中心に曇りや雨の日が多くなり、大雨となったところがありました。北日本では旬後半に強い寒気が入り、低温となりました。下旬は北日本から西日本では低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなり、東北地方や関東・東海地方を中心に大雨となりました。また旬前半はオホーツク海低気圧や寒気の影響で北日本を中心に顕著な低温となりました。

月を通しての日照時間は、沖縄地方では平年より多くなりましたが、そのほかの地方は少なくなりました。降水量は東北地方から東日本と九州地方では平年より多くなりましたが、南西諸島ではかなり少なくなりました。気温は南西諸島では平年より高くなりました。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より3ポイント低い62%でした。例年と比べて中国・四国地方と九州南部地方では10から17ポイント低くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.1大きい2.5で、例年より0.2から0.4大きくなった地方が多くなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国的にほぼ例年並みとなり、全国平均でも例年と同じ1.6でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の週間天気予報から】

8月下旬は本州の南海上が広く気圧の低い状況が続き、前線や上空の寒気の影響も加わって大気の状態が不安定で、沖縄を除き全国的に曇りや雨の日が多く記録的な大雨となったところがありました。関東地方でも連日各地で局地的な激しい雨が観測されました。

この期間の週間天気予報は、この気圧配置がいつまで続くのか、雨がどの地域に降るのかといった点で非常に難しい判断が続きました。

この期間のうち8月24日と25日の地上天気図を図1に示しましたが、両日ともオホーツク海に高気圧、日本海と本州の南海上には低気圧があってほぼ停滞したままとなっています。対応

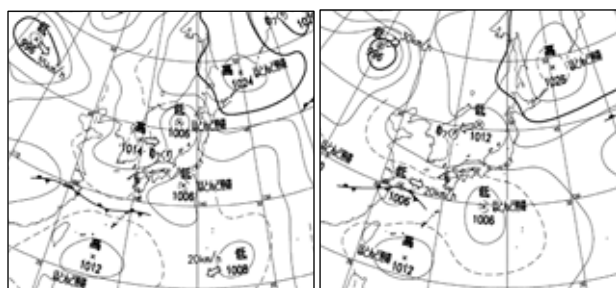


図1 2008年8月24日21時（左）、25日21時（右）の地上天気図

する日降水量の実況を図2に示しましたが、関東地方の大部分で雨が降り1日で100ミリ近いまとまった雨量になったところもありました。8月20日に発表した週間天気予報では、24日の東京地方は南海上の気圧の谷の影響により雨が降ると予報しましたが、25日については気圧の谷が東に抜けて雨域が南下すると判断し、晴れ間が出る天気（「曇り時々晴」、降水確率

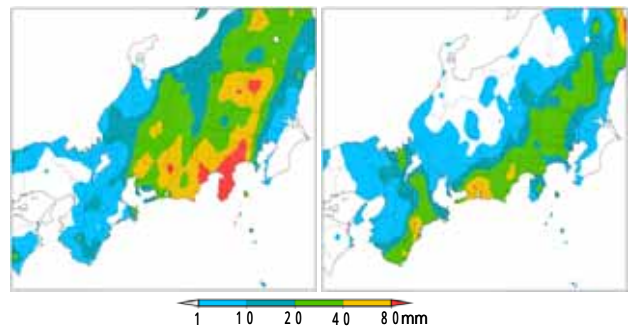


図2 2008年8月24日(左)、25日(右)のアメダス日降水量

30%)としました。このとき予報で使用した予想図を図3に示します。翌日の21日以降の予報も概ね同じ見方で、23日発表の予報までは内容を大きく変えませんでした。

実際には、オホーツク海の高気圧の勢力が強く、本州の南海上の低気圧を含む気圧の谷はほとんど停滞したままで、関東地方には海上からの湿った空気が流れ込み、25日になっても曇や雨の天気は解消しませんでした。このような気圧配置はその後もさらに続き、26日から31日にかけて前線などの影響も加わって、東海や関東地方を中心として記録的な大雨となりました。

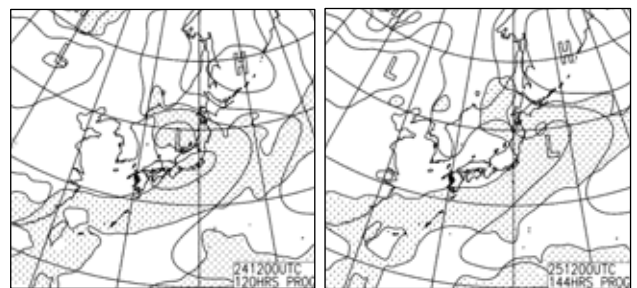


図3 2008年8月20日の予報で使用した8月24日21時(左)、25日21時(右)の地上予想図(水玉模様は降水が予想される範囲を表す)

今回のようにオホーツク海付近で優勢な高気圧が停滞したまま日本付近の気圧配置があまり変わらない状態が続くときは、大雨や長雨、また低温が長引くケースなど、不順な天候をもたらすことがあるため、注意すべき気象状況といえます。このような気圧配置の場合、いつこのパターンが解消するかなどの予想が的中しないことがあり、数日先の予報でも精度があまり良くないのが実状です。予報に付加している信頼度情報を参考にするとともに、直前の予報で確認していただくをお願いします。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

例年9月には、しばしば日本付近に停滞する前線も、10月になると次第に日本の南海上まで南下して、日本付近は移動性高気圧に覆われて晴れの日が続くようになります。しかし10月になっても前線が停滞して、ぐずついた天気が続く年もあります。

10月はさわやかな秋晴れの日が続くことも多いので、屋外でのレジャーや行事に適した月ですが、年によっては悪天が続きます。屋外での活動を予定されている場合には週間天気予報を有効に活用して下さい。